

「統合失調症入院患者における下剤使用に関連する因子についての多施設共同診療録調査」
に関するご協力のお願い -患者様並びにご家族の方へ-

獨協医科大学病院精神神経科では、統合失調症患者様における下剤使用に至りやすい因子についての調査を多施設で共同して行っております。当院精神神経科に入院歴のある患者様の診療情報を用い、下記の調査を実施いたしますので、ご協力をお願い申し上げます。

この調査を実施することによる患者様への新たな負担は一切ありません。また患者様のプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者様並びにご家族の方は、下記連絡先までご連絡をお願い致します。

1. 背景

統合失調症患者様の約 3 割は便秘であることが報告されており、その結果しばしば下剤が使用されています。便秘が悪化すると時に生命に関わる状態になることがあり、統合失調症患者様における下剤使用に至りやすい因子について調べるのが重要と考え、本研究を行うこととしました。

2. 対象となる方

2020 年 4 月 1 日から 2020 年 9 月 30 日の期間に当院精神神経科を退院した統合失調症の患者様のうち、重篤な身体合併症やアルコール依存症を合併されている方を除いた患者様を対象と致します。

3. 目的、方法

本研究は、統合失調症入院患者様における下剤使用に至りやすい因子を患者様の診療情報を用いて調査することが目的です。

4. ご協力をお願いする内容

この研究は、患者様の診療録から取得された情報を用いて行われます。新たにアンケート調査などの検査をお願いすることはございません。

5. 個人情報などの取り扱いについて

診療録に記載された年齢、性別、入院環境、入院直前時の処方内容、退院時の処方内容を使用させていただきます。情報は集計、解析し、学会発表などで公表します。公表に当たり個人を特定する情報は記載致しません。

6. 本研究を利用する者の範囲

本研究は多施設共同診療録調査であり、下記の共同研究機関及び各施設の研究分担者が本研究を遂行いたしますが、当院で得られた個人情報が他院に提供されることはなく、研究責任者である杏林大学の坪井貴嗣が本研究によって得られた情報を利用・解析いたします。

杏林大学（坪井貴嗣）、愛媛大学（伊賀淳一）、東京大学（市橋香代）、自治医科大学（岡田剛史）、北里大学（姜義貴）、東京慈恵会医科大学（小高文聰）、獨協医科大学病院（古郡規雄）、福岡大学（堀輝）

7. 本研究の実施期間

開始日～2024 年 3 月 31 日（入力および解析期間）

8. お問い合わせ

質問などのご依頼は、下記までご連絡ください。

研究責任者 古郡規雄

住所：栃木県下都賀郡壬生町北小林 880

獨協医科大学病院 精神神経科

電話：TEL：0282-86-1111（代表）